新年のご あいさつ

垂水市議会議長
篠原　静則

Assembly　議会

令和の時代を市民とともに

謹んで新年のお慶びを申し上げます。市民の皆様には、穏やかに、あるいは、ご家族で賑やかな新年をお迎えのことと思います。

昨年を振り返りますと、天皇のご即位によりまして「令和」という新たな時代が誕生いたしました。「平成」は自然災害の多い時代でありましたが、この「令和」の時代が平和で、穏やかな時代になることを願っております。

また、ラグビーワールドカップ日本大会が開催され、日本代表が予選全勝で史上初のベスト8進出を果し、多くの国民に感動を与えました。さらには大坂なおみ選手の全豪女子オープンテニスや渋野日向子選手の全英女子オープンゴルフでの優勝など、世界で活躍する選手が増えた年でもありました。今年は東京五輪の年でもあり、さらには48年ぶりにかごしま国体が開催されます。本市ではフェンシングをはじめ3競技が開催されることから、市を挙げて盛り上げたいと思います。

一方、国際的には隣国の韓国との関係が注目されましたが、ようやく雪解けの兆しが見えて参りました。韓国は重要な隣国であり、融和的な関係が望まれます。国内においては、台風15号、19号の影響により、東日本の広範囲で災害が発生し、多数の方々が犠牲となられました。1日も早い復興を願いたいと思います。幸い本市では大きな災害等はありませんでしたが、改めて災害に対しての訓練や対策の必要性を感じたところでございます。

また、本市においては、昨年10月10日「道の駅たるみずはまびら」に民間販売施設が開業し、道の駅施設の全てが完成しました。当日は、市内外から多くの方々が訪れ、大変な賑わいでございました。今後は、観光振興や地域経済の活性化等に期待したいと思います。

さて、私ども市議会におきましては、昨年の4月から新たな構成となり、初の女性議員も誕生いたしました。市政の主人公である市民の皆様が「住んで良かった」と思えるまちづくりを実践するべく、首長と共に二元代表制の一翼を担う議会の役割は、ますます重要になると考えております。執行部との連携を保ちながら皆様の声を市政に反映させる重要な責務を果たして参る所存でございます。

1年が素晴らしく実り多き年でありますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

垂水市長
尾脇　雅弥

行政　Administration

新年を喜び合う年に

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は、昨年1月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様の負託を賜り、第17代目の市長に就任させていただきました。平成23年1月の初当選以来、「垂水市の発展」と「市民の幸福」を理念に掲げ、「元気な垂水市をつくる」という信念のもと、市政運営に取り組んでまいりました。これからも市政の発展に邁進する決意でございます。

新庁舎建設におきましては、市民の安全な暮らしを守るため、昨年、その機能性や安全性の確保を図り、財政面に配慮した実施設計に着手しました。また住民説明会や車座座談会などで市民との対話を通して、事業への理解促進に努めてまいりました。今後も市民が親しみを持ち、開放的で人や情報の交流の場となる庁舎を目指し、取組を進めてまいります。

また、健康長寿や介護予防、子育て支援を目的に実施しております「たるみず元気プロジェクト」の健康チェックでは、一昨年に続き1000人を超える方々にご参加をいただき、取組へのご理解と健康に対する意識の向上が図られたものと考えております。

本年開催されます第75回国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」におきましては、リハーサル大会として、「第72回全日本フェンシング選手権大会（団体戦）」が開催されたほか、大会の実施に向け、準備を進めてまいりました。大会の成功とともに、本市の魅力を全国に発信してまいりたいと思っております。

また、「道の駅たるみずはまびら」では、マリンスポーツ施設と民間販売施設が開業しました。官民連携による観光振興や地域経済の推進を図るとともに、「道の駅たるみず」、「森の駅たるみず」と連携し、本市の交流人口の増加を図り、経済の活性化に取り組んでまいります。

さて、今年は「庚子（かのえね）」の年であります。十二支の始めにかわる、改まるといった意味があります。初心に返り、市政運営に努め、市民の皆様と喜びあえる年にしたいと考えております。

新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますことを心から祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。